

# いよいよ令和のお木曳、本番!

「お木曳」は、令和8年に第1次、9年に第2次と2年にわたり、5〜6月に外宮領「陸曳」、夏に内宮領「川曳」奉曳が実施されます。第63回神宮式年遷宮お木曳では陸、川合わせて72の奉曳団が奉曳予定です。来たる本番に向け、各団準備を重ねていただいています。

奉曳団によって規模も様々で、100〜200人前後で曳く団もあれば、1団で2000人という参加が見込まれるところもあります。奉曳車(お木曳車)や衣裳、さまざまな設えも個性が伺えます。団名に昔ながらの町名が残っているなど、町の成り立ち、歴史を感じさせるのも伝統ある民俗行事ならではのです。



奉曳の楽しみ「練り」で盛り上がる



本木遣り

## 第1次陸曳、伊勢のまちに「エンヤ〜」の音が響きます

5月9日、陸曳の幕開けです。陸曳団は今回53団。小学校区がひとつの基準となり日程が調整されています。宮川河岸から外宮北御門まで、約3キロの道のりを、団ごとに所有する奉曳車に御用材を載せて曳きます。宮川河川敷での水あげ、堤を越える「どんでん返し」、奉曳道中の催しや、曳きこんで外宮の貯木池まで、昔ながらの行程で実施されます。

お木曳は伊勢の人たちにとって大きな節目となる行事。町をあげて協力し合い、



貯木池



踊り連

それぞれの時代に応じながらも各団独自の伝統が受け継がれています。

采を手に奉曳を盛り上げる木遣り衆の唄も団によって節回しに違いがあります。奉曳車を担当する大工、後ろで車の舵を取る梃子方、そのほか1団が運行するには裏で支えるたくさんの役割があります。曳き手は2本の綱を手に全員の力を一つにして車を曳きます。綱を開いたり押しあつたりして遊ぶ「練り」、踊り連など、道中の楽しみも様々です。

奉曳に参加される皆様にはぜひ、熱中症や道中安全に留意されることをお願いいたします。また曳くだけではなく、沿道でのご見学もお木曳を楽しむ一つです。多くの方がお木曳を見て、参加していただくことが民俗行事を未来へつなぎます。

お木曳 陸曳 5月9日~6月13日 全15日間

## 注目のお木曳 磯町慶光院奉曳団 (第一次のみ奉曳)

内宮御正殿の御扉となる御用材を宮川から内宮まで陸曳する磯町の慶光院曳。その由来は500年前にさかのぼります



令和7年11月30日 試し曳

慶光院曳は、戦国時代に中断していた御遷宮復活に尽力した慶光院上人が、その功により伊勢神宮より御扉木奉曳の榮譽を頂き、奉曳に携わるのが磯町のみなさんです。宮川から外宮前を通り内宮まで、実に9キロほどの距離があり、綱の長さは総延長380メートル。早朝より曳きはじめ、日が暮れるまで続く特別なルートです。



平成18年5月28日 慶光院曳

現奉曳団は令和6年10月に結成。力をいれ、曳を予定しています。



## 川端町天漁人奉曳団 (かわはたちょうてんぎょにんほうえいだん)



川端町の子ども木遣りは「本木遣り」と「水上げ木遣り」の2種類があります。各パートに分かれ、元氣よく大きな声で采を振ります。「歌詞や独特の節回しを覚えるのは容易ではありませんが、毎週木曜の週2回、熱心に練習しています」と木遣り部長の内田賢樹さんを中心に、経験豊富な先輩が根氣よく指導する体制が整っています。練習を通じて大人も子どもも顔見知りが増え、街中であいさつを交わせる関係も築かれています。ようです。

5歳から中学生まで 18人が練習に集う豊栄会の子ども木遣り。学校が異なる子もいて、お木曳を通じて仲間ができています。楽しく元気に練習を重ねるうちにどんどんと意欲的になり、覚えは早いようです。最近の発表では連続で4曲を唄い切るまでになりました。「子ども木遣りは技の継承だけでなく、お木曳文化を守るための種まきです」と指導にあたる石塚琢磨さん。披露の場が子どもたちの自信にも繋がっています。

## お木曳にむけてがんばる子どもたち

レポート



## 豊栄会 (ほうえいかい)

藤里町・勢田町・旭町・豊川町

## 外宮領陸曳委員長に聞く 吉川 松喜さん

### 神領民として お木曳に奉仕する名譽

河崎六ヶ町で、子ども木遣りを経験していたという吉川委員長。時間が経っても御遷宮の思い出はしっかりと記憶に刻まれています。今回のお木曳では陸曳を実施する責任者という立場で本番に臨まれます。

「全団の運営にあたられる皆様とともに大切な民俗行事を安全に滞りなく遂行することが、委員長の役割です。重責ですが、神領民として行事に参加できる名譽を実感しています。参加される皆様、ご協力よろしくお願いたします。」



## おもてなしに 参加しませんか

### 特別神領民奉曳 受入にご協力ください

第60回式年遷宮以降、全国の神宮崇敬者を「特別神領民」としてお迎えしています。各団の奉曳と並行して神宮の奉曳車による特別な奉曳として実施するにあたり、特別神領民の皆様をお迎えし、ともに奉曳する「受入もてなし」、奉曳サポートのボランティアを募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

